

序 文

経済社会のグローバル化、地球規模での環境破壊、人口爆発などの多くの問題を抱える現代社会にあって、名古屋大学工学研究科・工学部は、子孫の世代まで現代文明の恩恵を享受できる持続的社會を構築するための科学と技術の創成をめざした教育と研究を進めております。科学技術基本法に基づく第3期基本計画は21世紀における日本の役割、特に科学技術の役割と責務を明示したものです。工学研究科・工学部への社会の期待は大きく、我々の責務には極めて重いものがあります。工学研究科・工学部技術部は平成14年度から発足した新しい組織のもとでその支援の役割を果たしてまいりましたが、平成16年度からは全学技術センター部局系技術支援室工学技術系として新たな一步を踏み出し、継続的な事業を展開しております。

大学における教育・研究内容のますますの高度化に加えて、大学を取り巻く環境の変化のため、安全・衛生管理、環境保全、情報ネットワーク等の新しい業務が専門の分野を問わず必要となってきました。工学研究科・工学部技術部はこのような状況に的確に対応するため、教員組織との強い連携のもとで、日々研鑽を繰り返してまいりました。この連携と研鑽こそが本技術部の活力を支える基盤となっております。

工学研究科・工学部技術部は、各専門分野における研究・教育支援はもとより、防災・安全・省エネルギー・情報ネットワーク等の多岐にわたる全学的な諸課題について、従来からその対応に中心的な役割を果たしてまいりました。本技術部技術報告書「技報」は、技術職員の方々が、教育研究支援業務を通して会得した成果と、技術力を高めるために企画・実施した研修の成果を取り纏めたものです。技術職員の活動と前向きな姿をご理解いただければと存じます。

工学系技術部は、全学技術センターの一員として、文字通り全学の研究・教育支援を担っております。法人化によって社会との連携が一層重要視される中、わが国の基幹研究を担う大学院大学として、また、高等教育の国際拠点として名古屋大学の果たすべき役割と責務は従来以上に重いものとなります。技術部は名古屋大学の発展のために今後もたゆまぬ研鑽をすすめる所存であります。皆様方には技術部の活動に忌憚のないご意見をいただき、今後も、その活動に一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年3月

工学研究科長・技術部長
澤木 宣彦